

[illegible]

のり面・自然斜面の基礎的条件								
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明		オーバーハング	☐ 無 ☐ 有			
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明		排水施設	☐ 無 ☐ 有(のり肩、小段排水)			
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高	m(平均高	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物			
		(うち擁壁高	m)	擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部			
のり面勾配		度		☐ のり面の下部 ☐ 全面				
のり長さ		m		家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無			
変 状 形 態 と 配 点 表								
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大	
	1	クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面	5
	2	陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上	6
	3	沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上	7
	4	段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上	8
	5	隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上	9
	6	湧水、噴砂	☐ 無 ☐ 有→+1 点(上の点数に1点加える)					
の り 面 ・ 自 然 斜 面	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大	
	1	クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm 未満又は複 数	2	15 cm以上又は全面	3
	2	ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3	ガリー浸食	クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。	6	のり面の表土が雨裂 に陥没するなど放置 していると被害が広 がるおそれのあるも の。	7	洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8
	4	滑落・崩壊	部分的な表層すべ り、又はのり面上部 の小崩壊。	7	表層すべりが進んで えぐり取られたよう な状態。放置すると 拡大するおそれのあ るもの、又はのり面 中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9
	5	のり面保護工の変状 (植生工は除く)	例えば、のり枠の間 詰め陥没。又はコン クリート吹付工にわ ずかにテンションク ラックが見られるが 吹付工のずれは認め られない程度。	7	例えば、のり枠の部 分的な破損。又はコ ンクリート吹付工の クラック部分で陥 没・ずれが見受けら れる。	8	例えば、のり枠の浮 上り破壊。又はコン クリート吹付工のラ ス金網が露出し、コ ンクリート吹付面にも 破損が見受けられ る。	9
	6	排水施設の変状	天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。	3	左に加え、のり面の クラック、又は目地 からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下す るなど、排水機能が 失われている。	7
	7	のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					8
	8	湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有→+1 点(上の点数に1点加える)					
	被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・変状点の記載無し		 点		☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1～3 点(当面は防災上問題無し) 中被害： 4～7 点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害： 8～10 点(危険、要避難、立入禁止)			
	危険度判定		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無					
	所見(記入者の意見) ※無被害の場合は記載無し	緊 急 度	☐ 大 ☐ 中 ☐ 小		(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)			
拡大の見込		☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可		(備考：)				